

総合診療室（総診）を経験して

総合診療部を経験して

歯科総合診療部 研修医 佐藤 圭祐

後半43分、相手チームのハンドにより日本にPKのチャンスが舞い込む。蹴るのはもちろん日本代表のエース本田圭祐。名前が一緒というだけで親近感がわいてしまう。日本中が固唾を飲んで見守るこの状況でも、ど真ん中にしっかりとシュートを決める。見事ワールドカップの切符を掴んだザックジャパン。1年後の本大会に向けて代表選手への期待は高まるばかりだ。1年後……自分は歯科医師としてどれだけ成長できるだろうか。

長いようで短い学生生活を終え、国家試験を終えてから約2ヶ月。私の歯科医師人生は臨床研修という形でスタートした。私は新潟大学の臨床研修Aコースというプログラムを選択したため、総合診療部で1年間研修を行うことになっている。患者様の配当を受け、治療計画を立て、それにそって1年間治療を行っていく。私自身もそうであったが、学生実習の延長として捉えられがちなこのAコース。来年以降の研修生のために少し紹介させていただきたい。

研修生活の目標（学生然り）として「1症例でも多くの症例を経験したい。」というのは誰もが考えることだと思う。実際に外部の病院でたくさん症例をこなしているという話を聞いたり、難しい手技を経験したりしたという話を聞いた時の焦りは尋常じゃない。オーストラリア戦試合後、本田圭祐のインタビューでも、「結局は個。自分が前が出る気持ちを強く持って集まっているのが代表選手。」と個人技の必要性について強く訴えている。

しかし、私がAコースで臨床研修を約3ヶ月行ってきた上で感じたのは、治療を行う前段階での治療計画立案の重要性だ。実際に先ほどの本田

圭祐のインタビューでも前置きとして、「日本の最大のストロングポイントはチームワーク」と言っている。しっかりとしたシステムの土台がないと個人技は生きてこないということだ。

私自身の1年間の目標を4月1日の当院式で発表したことを覚えている。「一症例一症例を焦らずじっくり考えたい。」今のところ充実した研修を送ることができていて、Aコースにしてよかったと感じている。とはいえ、1つの診療がうまくいったと一喜一憂し、周りの研修医の話に刺激を受けながら自分を奮い立たせているのも実際だ。同じAコースの仲間と共に1年間切磋琢磨しお互いを高めあいながら、充実した研修を送ることができたいと感じている。

最後に私事ではあるが、大学生活6年間の不摂生がたり、約15kg増量してしまった。研修期間中のもうひとつの目標として「1年で-10kgのダイエット」を現在進行形で行っている。ジムに通いはじめたり、ゴルフや登山と趣味の幅を広げたり、新潟マラソンに参加登録してみたりと色々模索中の毎日……。43期のみなさん、年度末にでもお互いの研修話するとともに自分のデブキャラ払拭のチャンスをください。美味しいお酒用意して新潟で待ってます。



総合診療部を経験して

歯科総合診療部 研修医 岸 陽子

5年生の秋から総合診療部で診療を始めて1年以上が経ちました。学生の頃は何もかもが初めての経験で、目の前の診療をただこなしていくだけで精一杯でした。そんな余裕のない私たちを各科の先生方は、治療方針や処置内容について一症例ずつ丁寧に指導してくださったり、診療前には処置の手順の確認等、診療後には反省等チェックを行い、時間を割いてサポートしてくださいました。また、技工士の先生方も私たちがなるべく自分たちの手で技工物を作って学べるよう、手取り足取り指導してくださり、それらがうまく患者様の口腔内に入って満足して頂けた時の喜びと安堵感は今でも忘れられません。

1年間の学生の臨床実習を経て、現在も同じ総合診療部で臨床研修を行っています。今でも私たちの助けとなるのが臨床実習で学んだことです。1年間実際に患者様を診ていたという経験は、教科書などからは得られない貴重なものであったと実感しています。

臨床研修が始まって臨床実習と大きく異なると感じたのは、様々な疾患を持つ患者様も配当されることです。服用している薬も多く、できる処置も限られることがあり、全身状態とリンクさせて治療内容を考えなくてはなりません。臨床研修では主に5人の先生方に指導医として指導して頂いており、このような困ったことや迷うことがあれば相談にのってくださり、的確なアドバイスをして頂けます。保存、補綴、歯周それぞれを専門とした先生方が揃っているので治療方針や方法に偏りが出ることなく、様々な観点から口腔内をみることができるようになるのも大きな魅力です。

また、私たちは配当された患者様の診療以外にもいくつかの係の業務も行っています。予診係では初診の方の話を伺い、口腔内を診て自分で診断をしなくてはなりません。ここでは初診の全ての方がいらっしゃるの口腔外科や顎関節、インプラント治療部など専門診療部でなければ診ることができない症例も多く診ることができます。痛み

や腫れがあり、辛い思いをして来院されている場合も多いので、いかに効率よく話を聞き、大事なところを診査し、的確な診断を下せるかが重要になってきます。始めは長時間お待たせしてしまうことが多くありましたが、レジデントや医員の先生方からもアドバイスを頂けることで少しずつ診断する力がついてきたように感じます。

さらに、技工係という先生方の診療アシストを行う係もあります。ここでは教科書では知ることのできない診療の技やコツを教えて頂けるチャンスでもあります。毎回先生方の診療では驚かされることもたくさんあり、次の自分たちの診療に役立たせて頂いています。

私が研修先に総合診療部を選択した理由の一つに、同期みんなで切磋琢磨し合える恵まれた環境であるということが挙げられます。臨床実習で自分の思い通りに治療をすすめることができなく悔しい思いをしたときも、そのたびに仲間が声をかけてくれたり、看護師さんに話を聞いてもらったりと周りの方々に助けて頂きました。臨床研修でも一緒に問題解決でき、辛いことがあれば励まし合える環境に何度も助けられました。こういった場所で研修を行うことができ大変幸せに思います。

また、臨床研修でも技工を行う機会はたくさんあり、親身になって指導して下さる技工士の先生もいらっしゃいます。他の研修先ではなかなか直接技工士の方から指導して頂ける経験はできないそうなので、このチャンスを生かし、技工技術をステップアップさせていきたいです。

最後に、4月に臨床研修を始めてから早3ヶ月



がたとうとしています。この3ヶ月は本当にあっという間でした。残りの研修でこの貴重な時間を無駄にしないよう、指導して下さる先生方や協力

して下さる患者様、一緒に頑張っている同期に感謝しながら自分なりに精一杯研鑽を積んでいこうと思います。

